



【 挨拶をする子供が育つために 】

○ 私は、用事のない限り、毎朝、校庭に立って子供たちに挨拶をしています。2年前よりも明らかに子供の挨拶がよくなりました。私も安心して立っていられます。今後、さらに、いつでも、どこでも、



誰に対しても、自然と挨拶ができる姿が望まれます。子供の挨拶は、**長い間**の指導、呼びかけ、習慣化などがなされる中で実現するものと改めて実感しています。

○ さて、挨拶をする子供の育成に向けて、30年前の「風光る窓（井波小学校だより）」に書かれた四辻校長先生の巻頭言を記載します。

・・・・・・挨拶には、形と質の指導が必要である。形の指導については、「あいさつ強調週間」等の際に呼びかけられるが、問題は質の指導である。そこで、子供の様子を見てみると、

- ★自分は家の人から、期待されているよ。
- ★遅刻しないで学校に来たよ。
- ★忘れ物はしてこなかったよ。
- ★宿題はやってきたよ。
- ★家で人間関係のトラブルはなかったよ。

- ★学校で非難されるようなことはしていないよ。
- ★自分には仲のよい友達がいるよ。
- ★今日は、学校でやりたいことがあるよ。
- ★自分は、先生から悪く思われていないよ。
- ★今日は、昨日と違った何かが待っているよ。

その子なりの性格や状況にもよろうが、これらの条件が一つでも欠けていると、子供は自分から進んで他に挨拶をしにくい。逆に言うと、挨拶を進んでする子に育てるには、一人一人に応じてこれらの条件整備が必要だということになる。ご覧のように、五つの☆は家庭、五つの★が学校に関わることである。・・・・（中略）・・・・挨拶する子の育成に当たっては、いずれも人間信頼に支えられ、積極的に他と関わろうとする資質を育てていくことが、その裏打ちになければならないと考える。

（井波小学校だより「風光る窓」 近代文芸社 1995年 P147, 148）

○ ここで言われていることは、「**あいさつの向上には、『人間関係』を土台とした質の向上が必要ですよ。」「学校と家庭でともに育てていきましょう。」**ということだと思えます。この示唆は、時代が変わっても必要な条件だと改めて思う次第です。